

P-7 学童期（小学校低学年）における  
口腔管理に関する考察

○橋本祐美子 片山菜実 中村華代

とがみ歯科・福岡市

近年低年令児のウシヨクは軽症化と減少化傾向が示されており家庭内での口腔清掃状態も良好な傾向をとるようになってきた。しかしそれに反し、小学校入学後の児童生徒の萌出まもない幼若永久歯の罹患は増加の傾向すらみられるように思われる。

それを共に歯石沈着及び歯肉炎の増加もみられる現状である。

その1つの要因として乳歯列期の口腔管理と比べⅡC～ⅢA期における児童への口腔管理がもう一つ、つっこまれていないことがあげられる。今回当院も受診した当該児童のブラッシング状態を調査し考察を加えたので発表したいと思う。

対象児童にまず自分でブラッシングをやらせたのち、歯垢染色剤で口腔内を染色し、各の歯牙についてのD.Iを調べてみた。これによると一番D.I値の高いのは、右側上顎第一大臼歯唇側と、右側上顎側切歯唇側であった。上顎歯牙の舌側は比較的数値は低かった。下顎においては舌側、唇側共に高い数値を示した。

次にこれをもとに各自にブラッシング指導を行い数日後2回目の診査を行い1回目との比較検討を加えてみたので報告したいと思う。

P-8 口腔保健指導用紙を使用した  
歯科保健指導について

○杉本いとみ、杉岡千津  
古澤潤一、大野秀夫

おおの小児矯正歯科（下関市）

近年、小児の顎口腔系の成長と関連ある機能障害が指摘され幅広い歯科保健指導が要求されている。しかし、現在、歯科医院における指導はウ蝕から離れた状態では存在せず、ウ蝕を中心とした考え方を発展させるべき状況にあるようである。より内容ある指導を実現するには、短時間で経年的な指導方法の確立が必要である。当医院では、今後の指導の基盤づくりとして、口腔保健指導用紙を作製し歯科保健指導を行っている。今回は、当医院の歯科保健指導の考え方ならびに指導内容（システム）を紹介し、それに従って行った指導結果および問題点について発表する。

（こどもの歯科保健指導の要点）

わるくならない・かきくけこ

わ：わるくならなければよい

か：カリエスだけにとらわれない

き：教育・躾として

く：繰り返し指導

け：経年的評価

こ：合理的かつ短時間の指導

（指導の実際）

経年的評価が可能な口腔保健指導用紙を使用し、初診時ならびに定期健診時に指導を行っている。step 1～5の5部構成で所要時間は30分である。定期健診時はstep 1, 2のみを行い、所要時間は15分程度である。

step	目標	指導内容
I	現状把握と指導方針の決定	問診：指導用紙記入 検査：カリオスタット 歯垢染め出し
II	歯口清掃の技術習得	実技：歯口清掃
III	歯口清掃に関する正しい知識の習得	ビジュアル指導(1) —歯口清掃理論編—
IV	口腔疾患に対する認識と理解	ビジュアル指導(2) 1.口の働き 2.疾患 3.食事指導
V	小児専門の歯科医院への理解	ビジュアル指導(3) 1.こどもの歯科治療 2.定期健診の大切さ

以上が当医院の歯科保健指導の実際である。学会当日、指導現場の方々とはポスターをみながら活発な意見交換を行い今後の歯科保健指導の向上をめざしたいと思う。